

<貯湯ユニット形名>

SRT-PT373B

(システム形名: SRT-P373B)

<計算条件>

項目	内容
設計用水平震度 (設置階)	1.0 (中間階、上層階及び屋上)
上部固定方法	あと施工金属拡張アンカーボルト(おねじ形)M10
下部(脚)固定方法	あと施工金属拡張アンカーボルト(おねじ形)M12

<結論>

平成24年国土交通省告示第1447号対応:[二号] 脚部と上部を固定

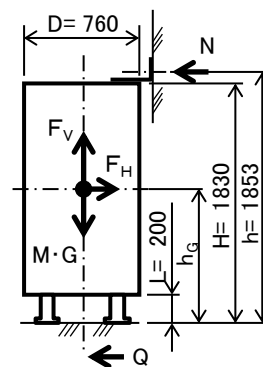
計算結果から、上部を あと施工金属拡張アンカーボルト(おねじ形)M10で固定し、下部(脚)を あと施工金属拡張アンカーボルト(おねじ形)M12で固定することにより、水平震度1.0の地震に対して強度を有すると言えます。

なお、据付にあたっては、仕様書又は据付工事説明書をご確認ください。

<計算の詳細>

1. 給湯機仕様

項目	記号	数 値	備 考
製品質量(満水時)	M	439 [kg]	350kgを超え600kg以下
製品寸法	高さ	H = 1830 [mm]	
	幅	B = 630 [mm]	
	奥行	D = 760 [mm]	
	脚高さ	L = 200 [mm]	
	上部固定高さ	h = 1853 [mm]	h=H+23
上部振れ止め金具	金具の本数	m = 1 [本]	
	ボルトの本数	m' = 2 [本]	金具1本あたりの本数
重心高さ	h <sub>G</sub>	1015 [mm]	
下部(脚)固定アンカー本数	n	3 [本]	「標準施工」位置



[図1]

2. アンカーボルトの種類(当社 施工仕様)

(1) 上部固定用アンカーボルト

(2) 下部(脚)固定用アンカーボルト

項目	あと施工金属拡張アンカーボルト(おねじ形)M10			あと施工金属拡張アンカーボルト(おねじ形)M12		
	記号	数 値	備 考	記号	数 値	備 考
穿孔径	—	10.5 [mm]		—	12.7 [mm]	
埋込長さ	L <sub>b1</sub>	40 [mm]		L <sub>b2</sub>	80 [mm]	
アンカーボルト総本数	—	2 [本]		—	3 [本]	
アンカーボルトの呼び径	—	10 [mm]		—	12 [mm]	
アンカーボルトの軸断面積	A <sub>t</sub>	78.5 [mm <sup>2</sup> ]		A <sub>u</sub>	113.0 [mm <sup>2</sup> ]	
アンカーボルトの	引張り	ft1 = 176 [N/mm <sup>2</sup> ]	SS400	ft2 = 176 [N/mm <sup>2</sup> ]	SS400	
	せん断	fs1 = 101 [N/mm <sup>2</sup> ]		fs2 = 101 [N/mm <sup>2</sup> ]		
コンクリートの設計基準強度※	F <sub>c1</sub>	18 [MPa]	壁	F <sub>c2</sub>	18 [MPa]	床

(※コンクリート圧縮強度 [MPa]=[N/mm<sup>2</sup>])

3. 設計用水平震度等、給湯機に加わる力

(1) 計算条件

項目	記号	数 値	備 考
設計用標準震度	K <sub>s</sub>	1.0 [-]	
地域係数	Z	1.0 [-]	1.0~0.7の最大値を使用
設計用水平震度	K <sub>H</sub>	1.0 [-]	K <sub>H</sub> =K <sub>s</sub> ×Z
設計用鉛直震度	K <sub>V</sub>	0.5 [-]	K <sub>V</sub> =(1/2)×K <sub>H</sub>
重力加速度	G	9.8 [m/s <sup>2</sup> ]	
設計用水平地震力	F <sub>H</sub>	4.3 [kN]	F <sub>H</sub> =K <sub>H</sub> ×M×G
設計用鉛直地震力	F <sub>V</sub>	2.2 [kN]	F <sub>V</sub> =K <sub>V</sub> ×M×G

## (2) 各部にかかる力

項目	記号	数値	備考
上部金具の軸方向力	N	2.4 [kN]	$N=(F_H \times h_G)/(m \times h)$
下部アンカーせん断力	Q	1.4 [kN]	$Q=F_H/n$

## 4. アンカーボルトの強度

## (1) 上部振れ止め金具固定用アンカーボルト

項目	記号	数値	判定		備考
			条件	結果	
短期許容引張応力度	ft1	176 [N/mm <sup>2</sup> ]	—	—	
引張応力度	$\sigma_t$	15.0 [N/mm <sup>2</sup> ]	$\sigma_t < ft1$	適合	$\sigma_t = N/(A_t \times m')$

以上より、 $\sigma_t < ft1$ なので上部固定用アンカーボルトの強度はM10サイズで十分である。

## (2) 上部アンカーボルトの短期許容引抜荷重(アンカーボルト引き抜き力)

『建築設備耐震設計・施工指針 2014年版』(一般財団法人 日本建築センター)
---

項目	記号	数値	備考
ボルト埋込長さ	$L_{b1}$	4 [cm]	40[mm] (ボルトの中心より壁辺部までの距離) $> L_{b1}$
コンクリート強度	$F_{c1}$	1.8 [kN/cm <sup>2</sup> ]	18[MPa]
補正係数	p	0.010 [-]	$p=1/6 \times \text{Min}(F_{c1}/30, 0.05+F_{c1}/100)$
短期許容引抜荷重	$T_a$	3.0 [kN]	$T_a=6\pi \cdot L_{b1}^2 \cdot p$ (ただし、 $T_a \leq 12.0$ [kN])

$P_b < 2 \times L_{b1}$ なので、アンカーボルト打設間隔による許容引抜荷重の低減計算を行う

項目	記号	数値	備考
打設間隔	$P_b$	60 [mm]	
低減率	$p_r$	0.875 [-]	$p_r=1/10 \times (2.5 \times P_b/L_{b1} + 5)$
低減後許容引抜荷重	$T_{ar}$	2.6 [kN]	$T_{ar}=T_a \times p_r$

項目	記号	数値	判定		備考
			条件	結果	
短期許容引抜荷重	$T_{ar}'$	5.2 [kN]		—	$T_{ar}'=T_{ar} \times m'$
引張力	N	2.4 [kN]	$N < T_{ar}'$	適合	

以上より、 $N < T_{ar}'$ なので上部アンカーボルトの引抜きに対する強度は十分である。

## (3) 下部(脚)固定用アンカーボルト

項目	記号	数値	判定		備考
			条件	結果	
短期許容せん断応力度	fs2	101 [N/mm <sup>2</sup> ]	—	—	
せん断応力度	$\tau$	12.6 [N/mm <sup>2</sup> ]	$\tau < fs2$	適合	$\tau = Q/A_u$

以上より、 $\tau < fs2$ なので下部(脚)固定用アンカーボルトの強度はM12サイズで十分である。